

【出生】	令和2年度
年間出生数	13人
養育医療申請見数	0人
低出生体重見数	0人

【医療機関】

*「発達障がい児(者)の診療等を行っている医療機関リスト」(沖縄県発達障害者支援センター)

【乳幼児健康診査】 令和2年度				スクリーニング
R2	年間実施回数	精神発達障害有所見率	保健相談要経過観察率	
乳児	6	0.0%	0.0%	医師判断/保健師判断
1歳児	3	0.0%	0.0%	
3歳児	3	0.0%	0.0%	保護者の訴え/会場での観察/課題の実施

【子育て支援サービス】

◆子育て支援センター：
一般型 0ヶ所
連携型 0ヶ所

気になる子のフォローの場としての利用：なし
＜その他子育て支援サービス＞

【個別発達相談】 令和2年度
年間回数：3件/年 延べ 4件/年
担当職種：外部委託臨床心理士

【未受診者対策】
電話・はがきでの再通知/保健師による訪問動員/母子保健推進員等による訪問動員/その他(保育士による動員)

【市町村独自の取り組み】
・乳健会場でのフッ素塗布希望者を対象とした歯科相談・フッ素塗布
・2歳6ヵ月児の歯科検診・歯科相談・フッ素塗布

【親の会等】

*「発達障がい者に関する親の会・当事者団体等リスト」(沖縄県発達障害者支援センター)参照

【療育グループ】

グループ名	
対象児(年齢)	
開催日時	
定員	
実施場所	
スタッフ体制	

【健診事後フォロー教室】

グループ名	
対象児(年齢)	
開催日時	
定員	
実施場所	
スタッフ体制	

【移行支援】

【移行支援】

【相談支援事業所】 指定障害児相談支援事業所 0ヶ所

【療育の利用にあたり必要な手続き】 医師の診断書：診断書以外：

【自治体の実施する取り組みや研修】

療育		それ以外の通所支援		
児童福祉法による障害児通所支援	児童発達支援	医療型児童発達支援	保育所等訪問支援	その他
親子通園	単独通園	親子通園	単独通園	その他
ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所

【気になる子がいた場合に紹介できる支援機関】
なし
主な機関名：
【幼児教育・保育施設での独自の取り組み】

【療育機関と保育所・園の併行利用】
①公立 0人 ②認可 人
③小規模認可園 人
④認定こども園 人
⑤認可外 人 ⑥幼稚園 人

【保育所】※()内は療育機関を併用している児の数

公立	認可	小規模認可	認可外	認定こども園	自治体独自の指定園
1ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所	ヶ所

【障害児保育】
実施園数：ヶ所
実施人数：0人

＜必要な手続き＞
医師の診断書：求める場合がある(実績がないが、あれば求める)
診断書以外：特別児童扶養手当/障害者手帳(療育・精神)

【通常保育中の気になる子を把握する仕組み】
保育士が村保健師との連携会、月1度実施。

【気になる子がいた場合に紹介できる支援・機関】

【施設支援・巡回支援】

＜対象施設＞

＜必要な手続き＞

＜対応職種＞

【自治体の実施する取り組みや研修】

【認可外保育園の気になる子を把握する取り組み】
施設なし。

＜認可外保育施設の発達障害に関する研修＞

【障害児保育から幼稚園や小学校へ繋げる取り組み】
自立支援協議会(保、幼、小)の担当者の連絡会年3回。

【保育園での気になる子を幼稚園や小学校へ繋げる取り組み】
自立支援協議会(保、幼、小)の担当者の連絡会年3回。

【就園・就学】

【放課後児童クラブ】 令和2年度
補助金交付対象児童数：ヶ所
障害児受入学童数：ヶ所
「障害児受入推進事業」実施学童数：ヶ所
「障害児受入強化推進事業」実施学童数：ヶ所

保健師の意見書による個別支援(訪問、電話相談等)

【障害者相談支援事業】
●委託相談事業所 (0ヶ所)

●基幹相談支援センター
設置：なし
【巡回支援専門整備事業】
現在、実施している
保育所へ来訪し、保育士の気になる児への対応アドバイス

【発達障害児者及び家族等支援事業】
過去に実施していた

【児童支援・保護者支援・教師支援に向けた取り組み】
・ソーシャルスキルトレーニング (SST) :
必要性を感じているが、運営面 (予算、人材等) に課題がある (保健保育/福祉)
現時点では、必要性を感じていない (教育)

・ベアレント・トレーニング:
必要性を感じているが、運営面 (予算、人材等) に課題がある (保健保育/福祉/教育)

・ベアレントプログラム:
必要性を感じているが、運営面 (予算、人材等) に課題がある (保健保育/福祉/教育)

・ティーチャーズ・トレーニング:
必要性を感じているが、運営面 (予算、人材等) に課題がある (保健保育/福祉/教育)

・ベアレントメンター :
必要性を感じているが、運営面 (予算、人材等) に課題がある (保健保育/福祉/教育)

・ピアサポーター (福祉のみ) :
現時点では、必要性を感じていない

【各機関の相互連携】
発達支援に関する行政内での連携会議等

名称	頻度	参加部署等	検討内容

【発達障害に関する窓口の周知方法】
特に周知していない

【発達障害の相談対応】

【災害時支援に関する今後の取り組みや課題】
特になし

【新型コロナウイルス感染症対策に関する発達障害児の支援】
特になし

【高齢期の発達障害児支援に関する取り組みや課題】
特になし

【独自事業や取り組み】
発達外来、療育相談

【発達障害児者支援への取り組み状況や課題】
高校へ入学し、島外へ出た際の支援機関や医療機関への引きこもり体制や協力体制

【幼稚園入園時に発達障害の子どもを把握する取り組み】
<状況> ほぼ把握している
<把握方法>スクリーニング検査実施 (制度化している) / 幼児教育・保育施設からの引継ぎ (制度化している) / 保護者からの事前相談/関係課からの情報提供 (制度化している)

幼稚園 (令和2年度)

【特別な支援を要する幼児】 (令和2年度)
自閉症・情緒障害児： 人
言語障害児： 人
知的障害児： 人

【加配支援員について】 (令和2年度)
配置： (総数： 0 人)
配置園数： 0
支援対象園児数： 0 人
採用基準：
配置基準：

【加配支援員向け研修会について】 (令和2年度)
なし

【就学相談 (就学支援) について】 (令和2年度)
幼児数： 0 人
特別支援学校： 0 人 通級指導 人
特別支援学級： 0 人 通常級のみ： 人
工夫や課題：

診断書の提出：
【個別の教育支援計画・指導計画について】

【不登校の児童】
取り組みや課題：

【幼稚園で気になる子の引き継ぎについて】
委員会主催で情報交換の場を設けている/支援ファイル (新サポートノートえいぶる 等) の利用を推進している

【小学校入学時に発達障害の子どもを把握する取り組み】
<状況> ほぼ把握している
<把握方法> 幼児教育・保育施設からの引継ぎ/関係課からの情報提供 (制度化している)

小学校 (令和2年度)

【特別支援学級】 (令和2年度)
自閉症・情緒障害学級： 1
言語障害学級： 0
知的障害学級： 1

【通級指導教室学級総数】 (令和2年度)
自閉症対象： 0
注意欠陥多動性障害対象： 0
学習障害対象： 0
言語障害対象： 0
情緒障害対象： 0

【加配支援員等について】 (令和2年度)
配置： (総数： 0 人)
配置校数： 0 校
支援対象児童数： 0 人
採用基準：
配置基準：

【加配支援員等向け研修会について】 (令和2年度)
なし

【就学相談 (就学支援) について】 (令和2年度)
児童数： 4 人
特別支援学校： 0 人 通級指導 人
特別支援学級： 4 人 通常級のみ： 人
工夫や課題：通級クラスがないので通級指導が難しい。特別支援学級という名前が重すぎて保護者が学級に入れたがらない、勘違いしてケースも多い
勘違い：全く何もできない子が入るクラス、入級すると一生レッテルが張られるなど。
診断書の提出：求めている (症状が明確になるし、転校 (転出) する際、相手から求められる。)

【個別の教育支援計画・指導計画について】
支援の必要な子は、全員作成している

【不登校の児童】
取り組みや課題：

【小学校で気になる子の引き継ぎについて】

【中学校入学時に発達障害の子どもを把握する取り組み】
<状況> ほぼ把握している
<把握方法> 小学校からの引継ぎ (制度化している) / 保護者からの事前相談 (制度化している)

中学校 (令和2年度)

【特別支援学級】 (令和2年度)
自閉症・情緒障害学級： 1
言語障害学級： 1
知的障害学級： 1

【通級指導教室学級総数】 (令和2年度)
自閉症対象： 0
注意欠陥多動性障害対象： 0
学習障害対象： 0
言語障害対象： 0
情緒障害対象： 0

【加配支援員等について】 (令和2年度)
配置： なし (総数： 人)
配置校数： 校
支援対象児童数： 人
採用基準：
配置基準：

【加配支援員等向け研修会について】 (令和2年度)
なし

【就学相談 (就学支援) について】 (令和2年度)
生徒数： 2 人
特別支援学校： 人 通級指導 人
特別支援学級： 2 人 通常級のみ： 人
工夫や課題：通級クラスがないので通級指導が難しい。特別支援学級という名前が重すぎて保護者が学級に入れたがらない、勘違いしてケースも多い
勘違い：全く何もできない子が入るクラス、入級すると一生レッテルが張られるなど。
診断書の提出：求めている (症状が明確になるし、転校 (転出) する際、相手から求められる。)

【個別の教育支援計画・指導計画について】
支援の必要な子は、全員作成している

【不登校の児童】
取り組みや課題：

【中学校卒業後の引き継ぎについて】
●高等学校：現場教員に一任している

●高校以外の進路先 (就労支援も含む) :

高等学校・特別支援学校・就労 等

【成人の発達障害者に対する支援】
特になし
【発達障害者の可能性が疑われる (未診断) の方への対応】
特になし
【就労機関に繋ぐ際の工夫点や課題】
離島で就労に対しての専門的相談場所、就労場所がない。

【自治体で行っている特別支援教育に関する研修会について】
研修名/対象/年間回数/形態

【市町村独自巡回支援】
行っていない
利用する事業や制度：
対応している職種 (人数) :
支援対象となる職種：
支援の対象者と内容：

必要手続き：
【教育研究所や青少年センター等市町村独自の機関との連携について】
機関がない
【公立学校以外の通学児童の把握及び支援】
行っていない

【特別支援教育を進めるにあたり市町村独自で取り組んでいること】
年に3回、臨床心理士の検査や相談、専門小児科医の診察を実施。
コロナ禍では小児科医はネット上での対応となったが、全て無料で対応しており少しでも不安がある保護者は積極的に利用している。(毎回10組以上)

【特別支援教育に関する説明会の対象者と時期、目的、内容】

【発達障害に関する高校受験の配慮事例】
高校受験に際し、ルビ対応など対応については学校と県の入試先と一任している。